



# き ら り



*Act as a bridge*

地域連携情報誌

vol.39  
2022年11月

いのちの誕生から生涯にわたって地域住民の健康を支え、頼られる病院であり続けます

# 医療の機能分化の 明確化において



理事（兼）院長補佐（兼）  
患者支援センター  
センター長（兼）  
脳神経外科 科部長

うる い せい し ろう  
潤井誠司郎

平素は患者支援センターの活動に対し多大なるご支援を賜りありがとうございます。

寄せては返すコロナももはや第何波かわからなくなって参り、まさに人の営みはウィズコロナでなければ成りゆかない状況となってきております。医療もまさに同様で、当院におきましてもすでにコロナ対応フローはしっかりと構築され、コロナ陽性の観血的治療適応患者・小児・妊産婦・透析患者などの受け入れ困難症例も含め、当院での医療を必要とされている患者さんを積極的にお受け入れさせていただくべく、我々患者支援センターは前方支援に全力を尽くしております。この前方支援に関連する情報の一端でもお伝えできればとの目的で、今年はハイブリッド形式での地域連携セミナーを計画させていただきましたが、この機関紙が皆様のお手元にとどく頃には無事終わっていることと思います。

一方、患者支援センターは当院から患者さんをご紹介させていただく後方支援の任務も担っております。地域の各医療機関、介護福祉施設の皆様の多大なご協力のおかげで、コロナ陽性患者さんも含めまして転院、施設入所や訪問看護または在宅復帰に向けた介護サービスなど、円滑に調整できている現状に、心から感謝申し上げます。

近年、医療の機能分担がより明確化され、当院には高度急性期医療が求められる一方、慢性期医療や外来機能は各医療機関様にお願いするという流れが加速してはりましたが、かかりつけ医の重要性がコロナを機にあらためて政府により強く打ち出されました。当院の在宅医療支援室では、各医療・介護施設様の情報及び状況を可能な限り詳細に把握・共有し、患者さんがシームレスに最適な医療を受けられるよう努めております。今後新たな試みといたしまして、後方支援に関する情報提供を主な目的とした地域連携セミナーを、来年2月頃に開催させていただく予定です。その折にも是非多くの皆様方にご参加いただけましたら幸いです。

また、昨年当院が「地域がん診療連携拠点病院」に指定されたのを機に、さらにはがん医療の充実に努めております。その一環として、がん地域連携パスにも注力しておりますので、地域の先生方のご理解ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

地域住民の皆様の健康を支え頼られる病院であり続けるために、患者支援センターは一丸となってこれまで以上に尽力したいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

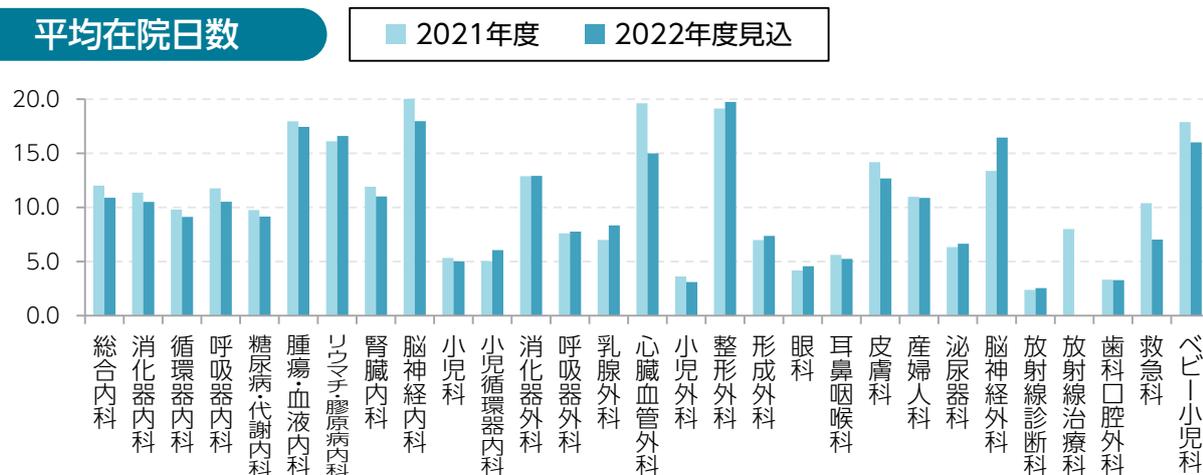
# 病院データ（地域連携）



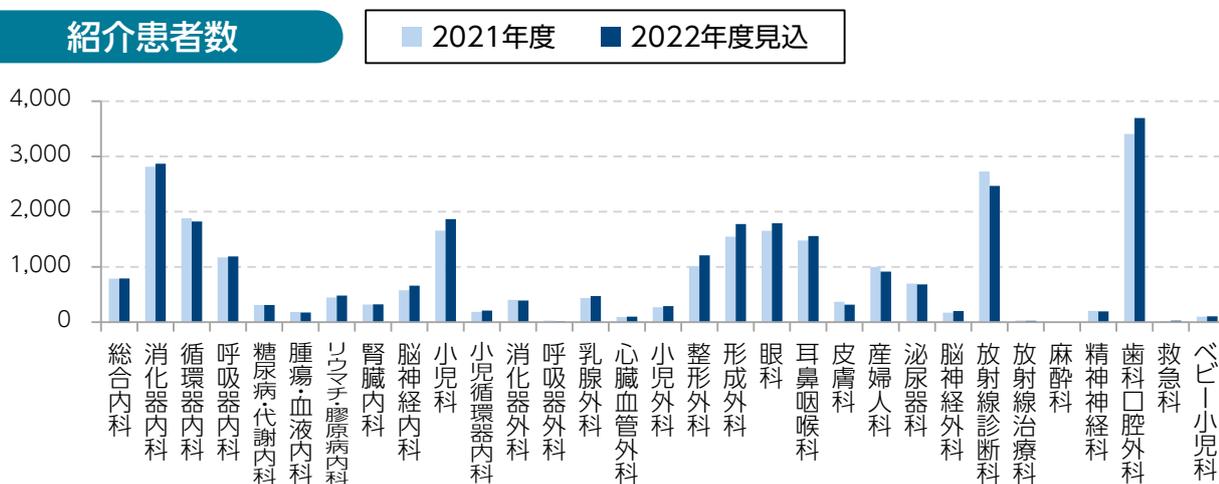
患者支援センターでは、当院が東播磨医療圏で果たすべき役割を全うするために地域の医療機関、介護・福祉関連施設と様々な情報交換を行いながら、高度急性期医療を必要とする患者さんの受け入れ、退院支援・退院調整の効率化、連携体制の整備に努めています。

地域の皆様には、当院からの転院、入所をスムーズに受け入れていただき、在院日数を短縮することが出来ております。また新型コロナウイルス感染の収束はまだ見えない中、コロナ禍以前とほぼ変わらず多くの患者さんを紹介して頂いております。地域住民の健康を維持するために地域の医療機関、介護・福祉関連施設の連携が不可欠であります。切れ目のない医療・介護を提供するために、今後ともご協力のほどよろしくお願いします。

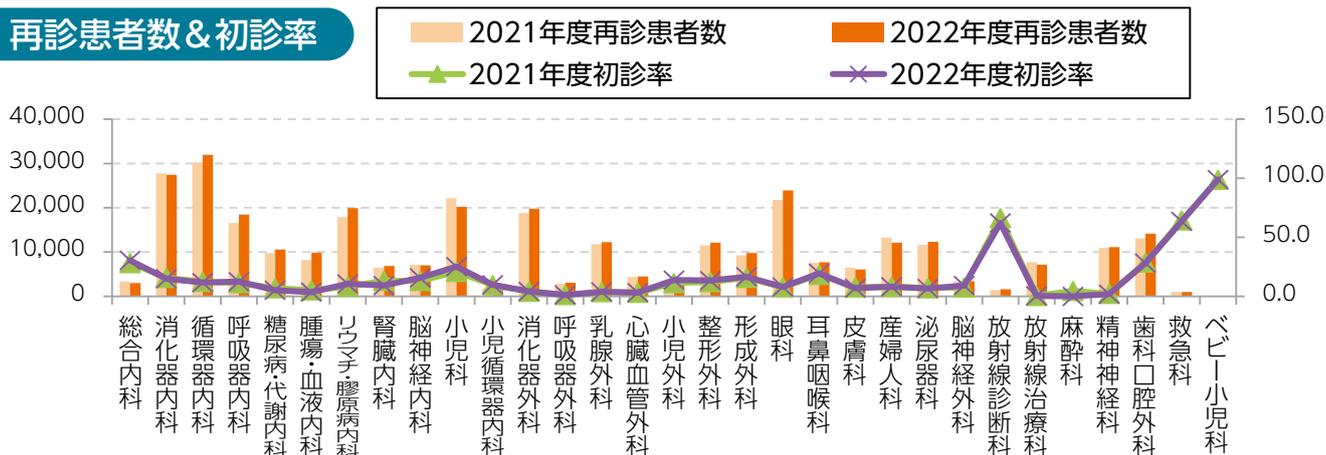
## 平均在院日数



## 紹介患者数



## 再診患者数&初診率

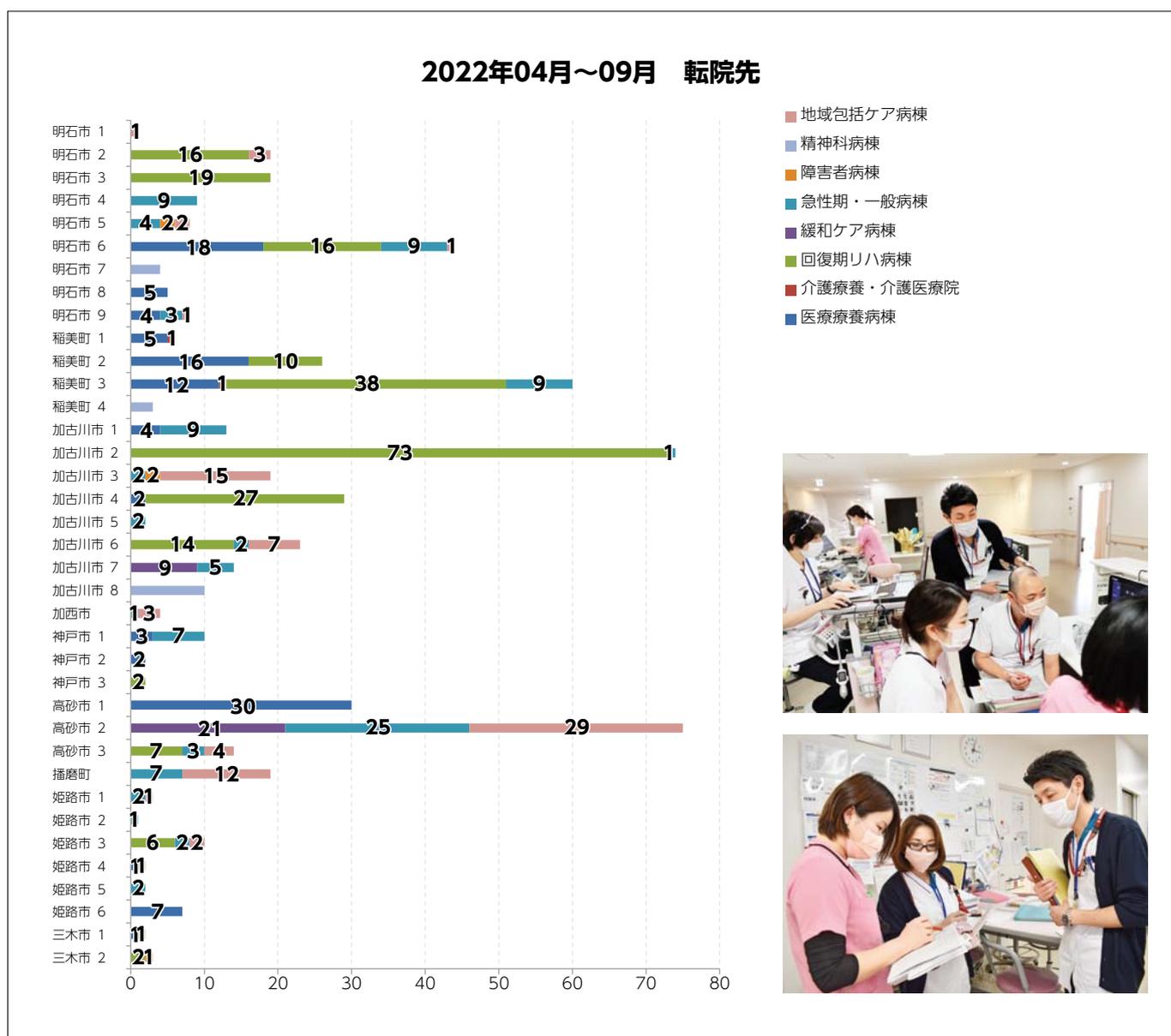




# 切れ目のない医療をつなぐ

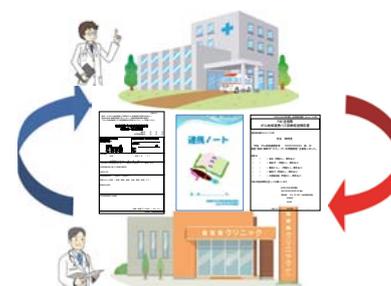


当院の役割として、治療が必要である患者さんをお断りすることなく至急に救急治療を開始する使命があります。そのため、私たちソーシャルワーカーは治療終了前から退院目途や退院時の状態を予測し、患者さんのニーズや今後の生活のイメージ、今後必要となる社会保障制度の見立てを行い、転院についてご相談させていただいております。地域の関係機関の皆様には、当院の役割を理解いただきつつ、非常に短期間の中で迅速でタイムリーな受け入れを調整いただき感謝しております。



## がんパスにぜひご参加ください。

がん地域連携パスを活用することで、地域の開業医の先生方と加古川中央市民病院が協力して情報交換を行い、安心して質の高い医療を提供する体制を構築することを目指しています。また、患者さんにとってご自身の治療計画や経過の把握、かかりつけ医の手厚い診療による不安解消にもつながります。



# かかりつけ医を推奨するために (在宅医療支援室)

## 病院から地域へ

### 〈在宅医療支援室よりメッセージ〉

当院では、高度・急性期医療が必要な多くの患者さんを受け入れる役割があることから、精査・加療を終えられた患者さんをスムーズに地域へかえすことが課題となっています。

在宅医療支援室ではかかりつけ医を持っていない方へ、地域の先生をご紹介させていただいています。患者さんの希望は、距離的な条件として「家から近い」、「公共交通機関を利用して通院したい」とおっしゃられる方が多く、可能な限り希望に沿って、紹介させていただいています。中には開業医の先生方の専門領域でない患者さんをご紹介させていただくこともあります。寛容に対応していただきありがとうございます。また、BSCとなった患者さんには、将来訪問診療が必要になる事を見据えて、かかりつけ医を設定しています。その際、「長年見てもらっている先生にお願いしたい」「家族も診てもらっているから」と、訪問診療を実施されていない先生をご希望になる場合があります。当院としても、そのような場合は患者さんとかかりつけの先生との信頼関係をくずさぬよう、ご無理を承知でご相談させていただく事もあります。これからも患者さんにご家族の意向に添えるよう支援させていただきたいと考えていますので今後ともよろしくお祈りします。

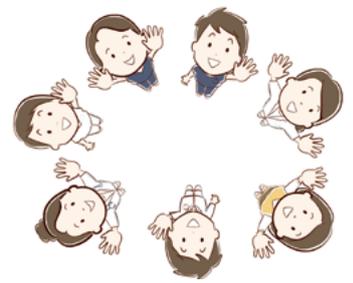


## 在宅復帰への橋渡し

当院では、患者さんによる医療機関の適切な選択を支援することを目的として、医療機能情報提供システムを運用しています。医療機関の診療科目や診療日、診療時間、対応可能な疾患・治療内容などが素早く検索できます。また患者さんにクリニックの情報をお渡しできるよう「かかりつけ医情報シート」も作成し、随時患者さんとそのご家族に提供しています。患者さんにかかりつけ医をもつていただくために、在宅医療支援室のスタッフが患者さんの病態、お住まいなど通院に関する情報をヒアリングしながら、サポートします。



# シームレスな連携を目指して ～各診療科からのメッセージ～



在宅医療支援室では、外来診療を担当している医師より患者さんの他院への紹介、かかりつけ医の設定において、弊害となっていることや苦慮していることをヒアリングし、患者さんが今後安心して通院できる医療機関をご紹介するために、日々調整を行っています。



## 呼吸器内科

急性期を脱している患者さんを、積極的に開業医の先生方に紹介させていただいています。若い世代の患者さんは、クリニックのほうが平日夕方・土曜日受診出来る利便性が高いため、ご紹介も納得が得られやすいです。呼吸器内科の開業医の先生がこの地域には少ないですが、喘息等は一般内科、循環器内科でも診ていただけると助かります。

今後、慢性心不全の患者さんが増加していく中で、在宅医（往診医）を設定するケースが多くなりますので、開業医の先生方がどこまでの地域的範囲が可能か、可能なケアの内容の情報を院内で集約し、ご紹介していきたいと思います。



## 循環器内科



## 糖尿病・代謝内科

当科外来患者の3分の1は薬剤調整が必要な患者さんであり、かかりつけに移行するのはまだ早い段階にあります。1型DMの患者さんを受けいただけるクリニックがあると大変助かります。眼科受診の必要性のある患者さんには近医眼科を受診するよう案内していますので、ご高診宜しく申し上げます。

当院しか診れない疾患（特殊な内服使用しているALSや多発性硬化症など）もありますが、他の地域は神経系は診れないと断られることが多い中、東播磨地域の開業医の先生には受け入れてもらっています。半年から1年毎に検査（MR、血液検査など）を当院でフォローさせていただき、開業医の先生方には内服処方を中心にフォローしていただくと助かります。



## 脳神経内科・脳神経外科



## 消化器内科・消化器外科

消化器内科では、エコーや胃カメラを定期的に行いながらフォローしている患者さんが多いため、エコーや胃カメラを実施していただけるクリニックへ積極的に紹介させていただいています。消化器外科では、治療中であるが一時的に全身状態を調整するための入院先があると助かりますので、地域の病院と共同していけたらと考えています。

特定疾患、抗リウマチ薬、バイオ製剤など使用中の患者さんは長期的なフォローが必要ですが、状態が安定していれば、紹介元へお返ししたり、かかりつけ医を設定しています。長期処方の変更がない患者さんはかかりつけ医へ移行し、状態変化があればまた当院で対応させていただきます。薬剤によってかかりつけ医で処方できないものもあると思いますので、事前に確認させていただきます。



## リウマチ膠原病内科

## 地域連携セミナーを 開催しました!



新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、例年なら5月に開催させていただいておりました「地域連携会議」は今年度も中止させていただきました。

「地域連携会議」は、地域の医療・介護福祉職の方々に直接お会いし、連携を深めさせていただくことができる、当院にとって極めて重要なイベントと位置付けておりました。その代替となる情報発信の場として、Zoomを使用した「地域連携セミナー」を11月17日(木)に実施させていただきました。今年度は、オンラインだけでなく一部来場者も招待し、ハイブリッド形式での開催となりました。



当日はご多忙のところ、多職種の方に参加していただきましたこと、厚く御礼申し上げます。新型コロナウイルスの感染が収束した際には、是非、地域の皆様にお集まりいただき、「地域連携会議」が開催できることを切に願っております。今後も当院からの情報発信は広報誌「きらり」、ホームページを活用しながら積極的に行ってまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

